

千葉県立房総のむら 訪問記 - わらぞうり作り

千葉市緑区 今川 友子

“身の回りの生活の道具を、身の回りにある自然の素材から、
自分の手で作り、使い、繕い、そして最後にはまた自然に返す、ていねいな暮らし。”

ほんの数十年前までは普通に営まれていたそんな暮らし方を再現し、その一部を体験することができるのが、千葉県にはあります。ご存じでしょうか。

『千葉県立房総のむら』は、県北部印旛郡栄町にあります。総面積32ヘクタールという広大な敷地には、雑木林が広がり、たくさんの古墳が点在しています。その中に、茅葺屋根の農家や武家屋敷、江戸時代後期から明治時代初期の商家の町並み、さらには弥生時代の竪穴式住居までが再現されています。

実際に耕作されている田や畑もあり、四季折々の自然に触れながら、里山の風景の中を自由に散策することができます。

でも、この施設の特徴は何よりも、「体験博物館」と銘打たれたその名のとおり、五感を通して千葉の自然や伝統文化、昔の人々の暮らしを知ることができるというところにあります。

『房総のむら』では、年間を通して様々な展示や企画、もの作りの体験などが行われているのです。

今回はその中の、「わらぞうり作り」をご紹介しますと思います。

「わらぞうり作り」の体験は、むらにある「安房の農家」と呼ばれる建物の中で行われます。よく手入れのされた畑の前を歩いて長屋門をくぐると、広い中庭があります。主屋は別棟造りと呼ばれる江戸時代後期に建てられた旧三芳村の農家を再現したものだそうです。長屋門も主屋も、茅葺屋根の立派な建物です。

敷居をまたいで建物の中に入ると、そこはうす暗い土間になっていて、昔の農具がたくさん並べられています。靴を脱いで上がり框から畳の部屋に入ると、既に藁ぞうりの材料である藁と細縄と、そしてぞうりを編むための木製の台が用意されていました。

藁ぞうりの材料は主に稲藁ですが、つま先を補強するためと、横緒（足の甲を支える紐の部分）を飾るために、木綿の端切れを使います。ぞうり作りの道具は、ハサミと、鼻緒をつける時に使う緒通し（竹で作った大きな針のようなもの）、そして編む時に芯（経糸）になる細縄をひっかける木製の台です。

この台は使わず、足の指に細縄をかけて編んでいく方法もあるようですが、慣れていないと難しいかもしれません。

藁は、藁すぐりをして余分な葉などを落としてから、しっかり藁打ちをして、湿らせた状態になっています。乾いていると、編んでいる時に切れてしまうので、時折霧吹きで濡らしながら作業をします。

細縄は、一足につき一尋半、つまり二足分で5~6メートルが必要となります。これだけの長さの縄を、均一の太さで纏うのは、慣れない者にはとても難しいです。また、この縄はぞうりの芯になります。ぞうり作りの工程では、最後にこの縄（芯縄）を強く引いて形を整えるので、その際に切れてしまうことがないように、しっかりと丈夫なものでなければなりません。今回は2時間のコースなので、スタッフの方が用意して下さいました。

編み始めは補強の布を巻き、つま先になる部分なので丸みをつけます。後は、藁3~4本ずつをそろえて、芯縄にくぐらせて編んでゆきます。横緒をつけて、かかとまで編んだら、芯縄を引き絞ってかかとも丸みをつけ、横緒を鼻緒で留めて余分な藁を刈り込んだら完成です。

最近では、稲藁の代わりに裂いた布を使って作る「布ぞうり」というものに人気があって、その作り方の書かれた本も、何冊か出版されているようです。

でも、稲藁でできた藁ぞうりは、足に馴染んで心地よく、好みの色で作った横緒は藁の色に映えて、粋にもなれば可愛くもできます。使い始めは少々藁屑が落ちますが、屋内で履くなら布ぞうりではなく、藁ぞうりを是非選択肢に入れて頂きたいと思います。

ただ、屋外での履物としてどこまで実用できるのかは未知数です。土の上なら問題はないはずですが、現代社会のアスファルトで固められた道に藁ぞうりが合うのかどうかまだ試してみたいことがありません。



仮に、昔と同じように土の上だけで履いたとしても、その耐久性や耐水性は現代の靴には到底及ばないでしょう。

でも、今自分が履いている靴が一体何でできているのか、それがどうやって作られているのか、きちんと分かっている人は珍しいのではないのでしょうか。一部の革靴を除けば今の靴は、石油由来の様々な材料を組み合わせ、複雑な工程を経て作り上げられた工業製品だからです。

それに対して藁ぞうりは、稲藁と人の手があれば誰にでも作ることができます。傷んで履けなくなれば土に戻して、また秋には新しい稲藁で作ることができます。壊れてもごみにならず、毎年新しいものを簡単に作ることができるのなら、それほど長もちする必要はないのかもしれない。（もちろん、稲藁を得るためには手作業による田作りをしなければなりません・・・。）

稲藁を使った履物には、藁ぞうりの他に、わらじ、足半（あしなか）などがあり、いずれも房総のむらで作り方を教わることができます。わらじは旅行などの時に履いたもので、長距離を歩けるよう、紐で縛って足に密着する形になっています。時代劇でおなじみですね。足半は、かかと部分のない短いぞうりで、力仕事の時に使ったり、武士が戦で履いたりしたそうです。

房総のむらでは扱っていませんが、稲藁を使った履物にはこれ以外に、雪国で作られていたブーツ型の深沓やスリッパ型の藁沓など、地域によって様々な形のものがありました。藁の編み方にも何種類かの技法があって、それが美しい模様になっています。これらは、野良仕事のできない長い冬の間、農家の土間やいろり端で作られていたのでしょう。藁ぞうりよりも複雑で難しそうですが、このまま途絶えさせてしまうのはあまりに惜しい、何とか残していつてもらいたい技だと思います。

今回ご紹介したのは履物でしたが、房総のむらではこれ以外に、むしろ、俵、けだい（みの）、鍋敷き、正月飾り、ほうき、もっこ、こも、藁馬など、稲藁を使っていろいろな物を作る実演や体験が用意されています。

以前、『谷津田だより（No. 144）』で高山さんがご紹介下さいましたように、日本には、稲を育てる田作りの文化の中に、そこで得られた稲藁を大切に使う「稲藁の文化」がありました。

長い年月をかけて育まれてきた、藁を使う技術、藁を使ったもの作りの技術を学ぶことは、単に生活用品を手作りするというだけではなく、その根っこにある文化を再発見し、引き継いでいくことに繋がるのではないかと思います。

房総のむらでは、農家だけでなく、商家や武家屋敷でも、自然の恵みを活かした衣食住の、多岐にわたる伝統技術を紹介しています。子供たちが参加できる企画もたくさんありますので、是非足を運んでみて下さい。



☆千葉県立房総のむら☆

【住所】

〒270-1506

千葉県印旛郡栄町龍角寺1028

電話 0476-95-3333

【開館時間】 午前9時～午後4時30分

【休館日】

月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）

年末年始（12月25日～1月1日）

【料金（通常料金）】

一般 300円

高・大学生 150円

中学生以下 及び 65歳以上 無料

障がい者手帳・療育手帳・精神障がい者

手帳保持者及びその介助者1名 無料





里山たんけんレポート

第192回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2016年1月10日(日) 晴れ

下大和田谷津が昨年末に環境省の「生物多様性保全上重要な里地里山」に選ばれたことのお知らせと本会の行事に参加、支えてくださったことへの感謝とお礼を述べて始めました。お正月の観察会は毎年、下流部へ谷津の現況を見ながら鳥の観察をしています。双眼鏡の使い方をおさらいしてスタートしました。田んぼにはセグロセキレイのペアがいて一羽は竹の棒にとまり、双眼鏡やスコープでじっくり観察しました。下流部は例年に増してヨシやセイタカアワダチソウ、アズマネザサが茂り、踏み跡も消えている状態でした。途中までは東電が鉄塔の保守用に草を刈ったところを行き、その先は草を掻き分けて鹿島川の合流部までたどり着きました。合流部ではキセキレイ、モズが出迎えてくれました。鳥は16種が出ましたが種も絶対数も少なく感じました、年々減少しているように思えました。戻ってきて葉の落ちた木の梢にホオジロのペアとカワラヒワが一緒にとまっているのに出会えて皆で見ることが出来て良い締めが出来ました。

(参加者 大人11名、高・大学生2名、小学生3名、幼児2名； 報告：網代春男)



川をのそくとコブナが群れていた



草を分けて下流部へ向かう

第186回 下大和田 YPP「どんと焼きと昔あそび」

2016年1月16日(土) 晴れ

11体のかかしを櫓に組み、それに持ち寄ったお正月のしめ縄、お飾りなどをかけました。火は火起こし器で起こします。6つの火起こし器で競って懸命に起こした結果20分ほどで炎が上がり着火に成功しました。お飾り、かかし、古いおだ材など感謝を込めて、また、無病息災、五穀豊穡を祈り、お焚き上げしました。お昼は美味しくたっぷりの味噌汁とお汁粉、どちらもお代わりして堪能しました。

午後は昔遊び、ベーごま、けん玉、だるま落としなど思い思いに楽しみました。ベーごまは初めてのこども達には難しくむしろ大人が昔を懐かしんで楽しんでいました。篠竹の弓での的当ては大人もはまっていました。恒例のボートレースは参加者が多く学年で分けて2レース行いました。参加者は馬ならぬボートにむちを必死にあてて競いました。実況放送入りで大いに盛り上がり、アンコールがあって追加のレースをするほどでした。入賞者には竹トンボの賞品が贈られました。終日、火の番をしてくださった方、料理に関わってくださった方々、有難うございました。好天に恵まれ、お楽しみもたくさんあった「どんと焼きと昔遊び」でした。

(参加 大人48名、中・小学生21名、幼児15名、報告 網代春男)



あともう少しで火がつきそう！



<谷津田・季節のたより>

小山町

- 1月 1日 暖かな元旦。アオジ、カシラダカ、ツグミ、モズなどさまざまな鳥の声が聞こえる（高山）。
1月30日 田んぼにカメのはい跡がたくさん付いていた（高山）。

下大和田

- 1月 9日 モズが早くもベアーになっていた（網代）。
1月11日 モズの動きが活発。ほかの鳥の鳴きまねをしていた（高山）。
1月15日 山の下刈り時にクビキリギスが出てきた。成虫で越冬するキリギリスの仲間（網代）。
1月30日 ニホンアカガエルの卵塊初認。29日にはなかったのが29日の晩に産卵した模様（網代）。田んぼからクサシギが4羽飛び立つ（高山）。

イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ？ と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト（YPP）のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうしで、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先（いずれも）：ちば環境情報センター（TEL&FAX：043-223-7807 E-mail：hello@ceic.info/）

ご注意：・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のおさんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼下大和田 YPP 第 187 回「アカガエルの産卵調査と谷津の手入れ」

田んぼを巡ってニホンアカガエルの産卵状況を調べます。今年の産卵がどうなるのか興味津々です。林や田んぼの手入れもします。

日 時： 2016年2月13日（土）9時45分～14時 *小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。また、ご連絡いただければ地図をお送りします。）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのはちばフラワーバスで45分<千葉駅発8:25、8:40など> 料金は520円）

持ち物： 弁当、飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物など。

参加費： ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料

主 催： ちば環境情報センター 共 催： ちば・谷津田フォーラム

▼第 194 回 下大和田 3 月の谷津田観察会とごみ拾い

ニホンアカガエルの産卵盛期です。卵塊のカウントをしながら早春の谷津を巡ります。

日 時： 2016年3月6日（日）9時45分～12時 ☆小雨決行

場 所： 千葉市緑区下大和田谷津田（同上）

集 合： 中野操車場バス停向かいラーメンショップ脇に9:45（下大和田 YPP に同じ）

持ち物： 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター・ちば・谷津田フォーラム

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

日時：2016年2月14日（日）、2月19日（金）いずれも9時45分～15時

場所：千葉市緑区下大和田谷津田（同上） 持ち物：飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、長靴、帽子、敷物

主催：ちば環境情報センター

▼第 127 回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

今年の米づくりに備えて田んぼのあぜの手入れをします。

日 時： 2016年2月20日（土）10:00～12:30、小雨決行

場 所： 千葉市緑区小山町 リンドウ広場（ご連絡いただければ地図をお送りします）

持ち物： 飲み物、長靴、帽子、軍手、敷物。

参加費： 100円（小学生以上、資料代など）

主 催： ちば環境情報センター。

編集後記 暖冬で迎えた新年ですが1月下旬に急に寒波が訪れました。西日本では記録を塗り替える降雪があったようですが、千葉はまだ例年と比べるとまだ暖かく、田んぼが全面結氷するような寒さにはなっていません。下大和田では例年とほぼ同じタイミングでアカガエルの産卵が始まりました。モズやセグロセキレイは恋の季節を迎えています。これからは春に向けての足取りさがしが楽しい時期です。（高山 邦明）